

事例番号：270012

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度

原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

2回経産婦。妊娠38週1日に陣痛開始のため入院となった。入院時の胎児心拍数陣痛図は正常であったが、入院3時間後の胎児心拍数陣痛図では反復する遅発一過性徐脈がみられた。破水後は反復する遅発一過性徐脈が進行し、その後基線細変動の減少がみられた。医師は徐脈あり、回復は早い、陣痛がやや弱いと判断し、2回の吸引分娩で児が娩出された。羊水混濁はなかった。胎盤病理組織学検査では、胎盤の一部、散在性に高度の石灰沈着が観察された。

児の在胎週数は38週2日で、体重は3172gであった。臍帯血ガス分析値（動脈か静脈か不明）は、pH6.840、PCO₂87.2mmHg、PO₂23.8mmHg、HCO₃⁻14.8mmol/L、BE-22.1mmol/Lで、アプガースコアは生後1分2点（心拍2点）、生後5分4点（心拍2点、皮膚色2点）であった。出生後、筋緊張がなく、自発呼吸もみられないため直ちに蘇生処置が行われ、生後56分にNICUに搬送となった。

生後6日の頭部MRIでは、両側基底核領域や脳周囲白質に高信号域が認められる所見であり、生後16日の頭部MRIでは、大脳全体や基底核、視床、脳幹に広範に高信号域が広がり、大脳半球には多嚢胞性脳軟化が生じて

おり、小脳周囲に血腫、帽状腱膜下に血腫を認める所見であった。

本事例は診療所における事例であり、産科医 1 名と、助産師 1 名、准看護師 2 名が関わった。

2. 脳性麻痺発症の原因

本事例における脳性麻痺発症の原因は、分娩直前に 1 時間半持続した胎児低酸素・酸血症と考えられる。胎児低酸素・酸血症の原因としては、臍帯因子（臍帯の持続圧迫）があった可能性が高い。また、胎盤機能不全があった可能性も否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

妊娠中の管理は一般的である。

入院時の対応は一般的である。入院後の胎児心拍数陣痛図の判読および評価を診療録に記載しなかったことは一般的ではない。反復する遅発一過性徐脈を異常波形と判読しておらず、連続監視や医師へ報告を行わなかったことは基準から逸脱している。基線細変動はほぼ消失しており、一過性徐脈が認められ、急速遂娩の実行が求められる状況で、胎児徐脈あり、回復早いと判読したことは医学的妥当性がない。

出生後の新生児蘇生は一般的である。分娩から新生児の経過に関し診療録に詳細な記載がないことは一般的ではない。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 胎児心拍数陣痛図の評価と対応等について

「産婦人科診療ガイドラインー産科編 2014」を再度確認し、胎児

心拍数波形レベル分類に沿った対応と処置を行うことが勧められる。

(2) 診療録の記載について

本事例において、妊娠末期の羊水量の記載やNICUに入院するまでの児の状態に関する記録が不十分であった。観察した事項については、診療録に記載することが望まれる。

(3) 骨盤位の取り扱いについて

本事例では、骨盤位のため妊娠29週と36週に外回転術が行われた。「産婦人科診療ガイドライン—産科編2014」では、胎児が成熟する週数以降に実施することが勧められ、早期に実施する場合には、自施設でその児の管理が可能であること確認するとされており、実施時期について検討することが望まれる。

(4) 新生児の状態の評価について

アプガースコアは、出生後の児の状態について共通の認識を持つ指標となるため、採点方法および新生児の状態の評価について改めて確認することが必要である。

(5) 分娩監視装置の時刻設定について

診療録の記載時刻と胎児心拍数陣痛図の印字時刻にずれがあった。分娩監視装置などの医療機器については、時刻合わせを定期的に行うことが望まれる。

(6) B群溶血性連鎖球菌（GBS）スクリーニング検査について

「産婦人科診療ガイドライン—産科編2014」では、妊娠33週から37週での実施を推奨しており、ガイドラインに則して実施することが望まれる。

(7) トラネキサム酸の投与について

妊娠中のトラネキサム酸の投与については、「産婦人科診療ガイドラ

インー産科編2014」を参考に再検討することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

特になし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児心拍数モニタリングの講習会について

胎児心拍数モニタリングに関する講習会を各地域において大規模かつ継続的に開催し、分娩に携わるすべての医療関係者が十分に習得できる体制の構築が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

特になし。